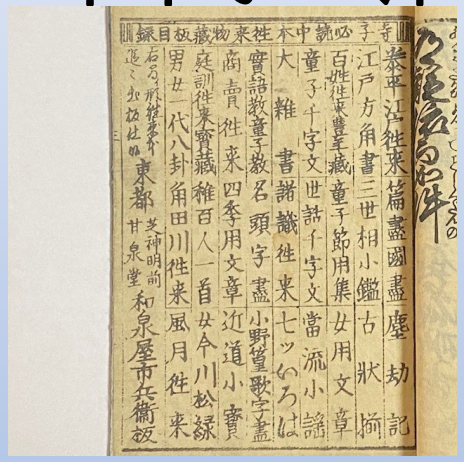
全44枚　1枚当たり30秒、
全体で22分スライドショー

2025.1.29 開設
2025.2.19 更新

寺子屋教育の方法と内容
ー現在の寺子年代に活かす方法ー



夜久　竹夫（日大文理）

2025.3.予定

応用オートマトン研究会

このスライドのQRコード

夜久学館寺子屋サイトのQRコード

YGD-2025-004, ©2025 YakuGakkan, CC BY-SA

引用資料

1．和泉屋市兵衛、寺子必読書、百姓往来豊年蔵 最終ページ、1866、甘泉堂

2．石川謙、寺子屋 : 庶民教育機関　日本歴史新書、237p、1960、至文堂

3．川本亨二、初等算数教科書としての「塵劫記」、教育学研究 35(1968), 105-114.

4．窪田祥宏、文部省創定小学教則について、日本の教育史学11(1968)、27 – 49.

5．石川松太郎、藩校と寺子屋、238p、1978、教育社

6．長友千代治校注、女重宝記・男重宝記 – 元禄若者心得集、現代教養文庫1507、社会思想社、1981

7．丹和浩解説、寺子屋の学習と往来物、平成5(1993) 展示を編集、東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ、1993

https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/exhibition/orai

8．石川松太郎・小泉吉永編、往来物解題辞典、2003、往来者倶楽部

http://www.bekkoame.ne.jp/ha/a_r/B40.htm

9．東京都立図書館、「寺子屋」ってなに？、江戸東京デジタルミュージアム、2011

https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/portals/0/edo/tokyo_library/gakumon/page1-1.html

10．アンガス・マディソン、世界経済史概観ー紀元1年ー2030年、岩波書店、503p, 2015。

11．http://www.yaku.org

用語　寺子：　寺で勉強した子供(当初)
　　寺子屋：　寺子が通った学校
この記事の対象　寺子年代に教える人
趣旨　寺子年代に寺子屋倫理を付ける

要旨
寺子屋教育の内容と方法を解説。
次に近現代の学校教育を対比させて、
子どもへの活用法と注意点を挙げる。

- §２　寺子屋の概要
- §３　教育内容：カリキュラム・テキスト解説
- §４　教育方法：法則優先方式、個別教育
- §５　近現代との比較
- §６　寺子屋を現在に活かす

1．はじめに

主題と範囲

高い民度維持は重要。

民度は寺子屋が支えたとみなして、寺子屋の教育を扱う。

背景

1000年前後	実語教(最初の寺子屋テキスト)
1500	GDP世界比　3.1%[10]
1500年代	寺子屋始まる←国是三教神儒仏
1600頃	近世。南米化回避←国是明確
1820	GDP世界比　約3%[10]
1850年頃	寺子屋全盛、約15000校
1868	近代教育開始・寺子屋終了、三教→→西洋三原理
1995	GDP世界比　約18%
2020	GDP世界比　約4%
	憲法←≈西洋原理(西洋作法・希臘哲学・基督教)
	寺子屋時代の規範は社会規範に残る

現状：作法軽視、忠孝軽視、供養軽視、
定住軽視
←国是≒生命と財産(今だけ金だけ自分だけ)

8/44

外国の例１(ハワイ) WIKI

ハワイ人はポリネシア民族
土着宗教、無文字時代
カプ(タブーの語源の方言）による統治

1810　カメハメハ大王により建国(統一)
1825　基督教、国教化
1840　憲法発布
1848　グレートマヘレ法 土地私有化(族長分配)
1850　クレアナ法 外国人土地所有可能へ
この頃　移民増加、帰化人の政府登用認可
1862時点　土地の約75％外国人支配
1881　カラカウア大王日本訪問、救援依頼
1893　滅亡、アメリカに同化

外国の例２(ウィグル) WIKI等

ウィグル人はトルコ系
744　ウィグル帝国建国
8世紀末以降　ベゼクリク千仏洞
795-805　マニ教国教化
14世紀　イスラム化進む
従前の墓地は放棄
1950　中華人民共和国に帰属
1991　漢族40%

動機　無作法、無忠孝、無信心→補習必要

cf. 外国(米国)　忠誠、唯一神教

目的　１．寺子屋の教育方法と教育内容

２．近現代教育との比較

３．活かし方

結果　１．寺子屋カリキュラムとテキスト

２．近現代教育の文化道徳宗教との違い

３．文化道徳宗教の再教育と注意

評価　実現可能

2.　寺子屋の概要
2.1　寺子屋年表[1,2,5,7,8,9]

寺子屋	社会一般
漢籍 四書五経 仏典 五時八教 国学 記紀神典	646　大化改新、仏教儒教の定着、 全土地国有(公地公民制)
	701 班田収受法(6歳以上1代貸与)
	712 古事記成立、神話定着
	723 三世一身法(3世貸与)
	743 墾田永年私財法(永代、私有化)
	800頃　荘園成立・・・格差拡大
1432頃　足利学校開学 (～1868)	1591頃　近世始まる。
1500頃(室町時代)寺子屋 始まる	太閤検地土地分配 (約10,000平米/戸) 総自営農、総定住、総納税 定住・地域文化の始まり
	1603　江戸時代始まる
	田畑永代売買の禁止令、五人組
	1624-1644頃　商業出版一般化 ←木版印刷普及

(次ページに続く)

前ページから続く

1750頃 寺子屋増加
←文書主義
1850頃 15,000以上[2]
1872 近代教育I 明治学制。
小学教則五書：神儒仏三原理↦
西洋三原理(西洋作法・
希臘哲学・基督教)、言文一致
1879　教学聖旨(儒教復活)
1880　文部省通牒(例えば「ｳｪｰﾗﾝﾄﾞ/修身論」使用禁止)
1890　近代教育II 教育勅語
1945　現代教育(戦後教育)
宗教・道徳原理隔離、
新仮名遣い

1868　明治維新、近代始まる
国教: 神仏混淆→神道
地租改正
→土地売買自由化…
→地域文化衰退始まる
1868以降　寺子屋卒業者が日本を運営。
1945　戦後体制、現代始まる
均分相続制・定住放棄
→地域文化衰退進行
2000年代　定住衰退←均分相続制3代・コスパ優先…
→地域文化消滅

2.2　寺子屋の仕様[2,9]

目的　作法＋神儒仏三教＋読み書き算盤
　　行儀が良くて、親と教師を敬い、弱者に優しく、
　　先祖神仏を供養する、信念を持った賢い人物の養成
　　←×→今だけ金だけ自分だけ、無作法、無礼、
　　無教養、
運営主体　　寺院、共同体(惣・村)、教師(私塾)
対象　5,6歳位～15,16歳位
個数　1850以降(幕末) 15000以上[2,5]、
　　年間300開業・江戸だけで1000～1300[Wiki]

寺子屋の仕様(続き)

全国組織	不明, 但し教科課程と教科書はほぼ全国共通。テキストの書式は全国統一
教師	僧侶、神官、武士、一般（男女）
教師養成	当初は足利学校等、湯島聖堂、私塾等
授業形態	複式授業

授業風景

足利学校

湯島聖堂

私塾の例。
石田梅岩邸

2.2　寺子屋の効果

民度：高識字率: 江戸1850、70～86%(欧米20%前後)
社会：順平等社会(大半が１町歩の納税自営農)、低犯
学問・技術：継続的発展
経済成長 [10]↓　単位　100万1900年国際ドル

	日本	英国	蘭	米	中	世界
1500	7.7(3.12%)	2.8	0.7	0.8	61	248
1600	9(2.9%)	6	2.1	0.6	96	332
1700	15.4(4.15%)	10.7	4	5	82.8	371
1820	20.7(2.98%)	36.2	4.3	12.5	228	694
1870	25(2.25%)	100	9.96	98.37	189.7	1,110
1913	71.65(2.62%)	224	24.96	517	241	2,733
1995[IMF]	5,045(18%)					
2003	2,699(6.60%)	1,280	348	8,430	6,187	40,913

2.3 寺子屋遺跡

- 筆子(生徒)参加の筆子塚(生徒が師匠を顕彰)
- 筆塚

- 市有形文化財
- 寺院境内
- 筆子塚

- 寺院の寺子屋の一部は、小学校に移行

筆塚、廬山寺内、
京都市上京区[wiki]

3．教育内容：教科書[1]

3．1　教科課程概観[2,5]

- 全部で27種前後（↓）
- 20頁/冊,300字/頁程度、
- 1冊600字程度が多い

初級

上級

国語科
- 七ついろは
- 名頭字盡 篇盡國盡 小野篁歌字盡
- 近道子宝
- 女用文章 四季用文章
- 稚百人一首
- 童子千字文 世話千字文
- 童子節用集

地歴科
- 隅田川往来 江戸方角書
- 古状揃

生活科
- 五人組帳前書
- 庭訓往来
- 泰平江戸往来 風月往来
- 貞永式目

教訓科
- 初登山教訓書
- 実語教 童子教
- 女今川
- 今川状

職業科
- 百姓往来 商売往来 諸職往来

学芸
- 当流小謡
- 塵劫記

暦占
- 男女一代八卦 三世相小鑑 大雑書

全部の写真

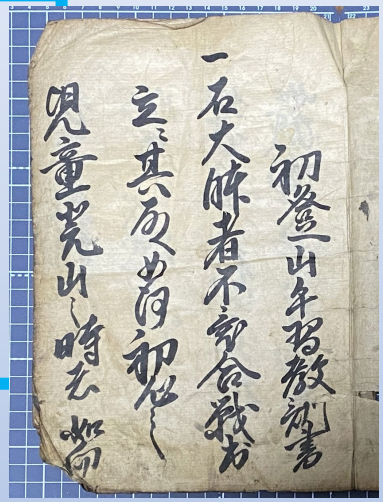
3.2　入学前の読本

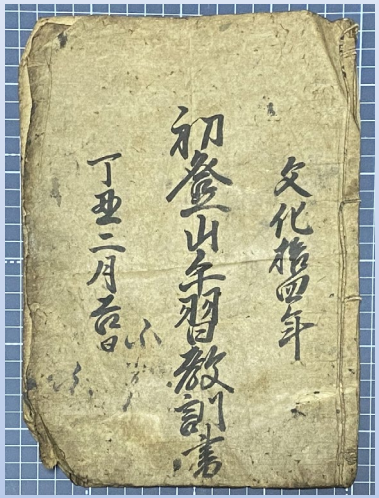
☆**初登山教訓書**

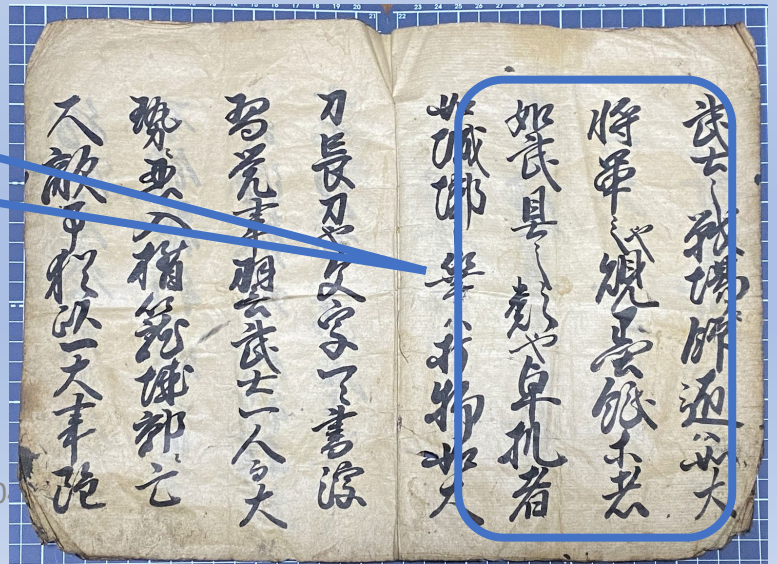
梶原平三・曽我太郎(伝) (1625)

45字 x 15p約700字の教訓集

以下で字数は本文(訓、頭書以外)の字数







師匠は大将軍の如し、
硯墨紙等は武具の類也・・・

から始まる教訓

3.3　語彙科(国語科)

単字

○ **七ついろは**、著者不明(1057初出)
47字x同音単漢字7種計約500字

○ **名頭字尽くし**、著者不明(江戸時代中期以降)、
文政11年版は111文字x五体
漢単字集(名字)

熟字

○ **篇尽くし国尽くし**、伝田中正澄(江戸時代中期頃)
熟語集(国名漢字)、地誌

○ **近道子宝**、作者不詳(1713初版)、衣食住方角等の基本語彙と心得、学習法

文章

単字

熟字

文章

つづき

○**古状揃**、編者不詳(江戸時代初期～中期)
文学入門書。腰越状他

○**女用文章**、居初津奈(1660-1690頃)
かな文例

○**四季用文章**、(平安中期頃成立)
手紙の書き方

辞典類

○**童子千字文**、原書；周興嗣(500頃)
漢字版いろは歌1000字。本書は解説が童子用、作者不明(1377初出)

○**童子節用集**、作者不詳(1687初出か)
子供用のいろは引き辞書

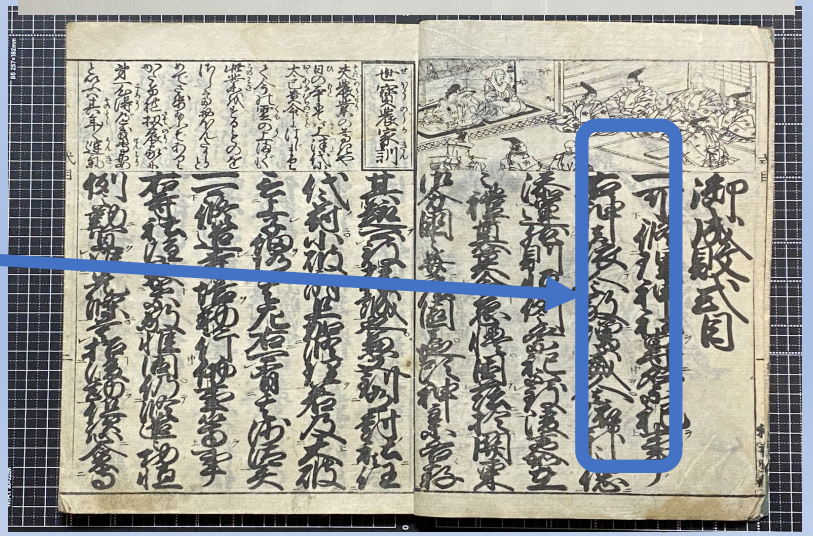
3.4　教訓科・宗教科

〇童子教、(伝)僧安然(1377以前)、
1560字の教訓漢詩集←仏教
(寺)には三礼、
(神社)には再拝、
人には一礼等　　共可成仏道

〇実語教、弘法大師(説有り)(1103以前)
480字の教訓漢詩集←儒教
人肥えたる(裕福)がゆえに尊からず
全体に財より智他

☆**今川状**、今川了俊(1400頃成立)、
家訓例：今川家家訓22ヶ条・
1．不知文道武道終に不得勝利事,
・学問武芸を怠ると負→怠るな！

☆**貞永式目(御成敗式目)**
北条泰時、貞永元年(1232)
当時の基本法(17条憲法の補則)。
習字の手本。51ヶ条全文。
1,2条　神社仏閣の手入れすべし
3条　…守護は庶民に非法を
働いたら解任



3.5　社会科

五人組帳前書、江戸幕府(1700年頃)
農家向け法令集、50条前後。
罪人通報、農地改変申告、
農地売買禁止
続く本文は住民協定見本。

庭訓往来、玄恵著(説)(室町前期頃成立)
生活用語・知識集
月別に合計25通の書状
衣食住、職業、産物等を織り込む

社会科の背景

地域別行事興隆

○泰平江戸往来(自遣往来)、作者不詳(1669以前)

○百姓往来、作者不明(江戸中期頃)

背景：（全戸定住・全戸自営・継続保証の政策）

①←全戸定住(代々居住)←家督相続制

封建税制(一定率納税すればあとは自由)(=現在,

≠中世(定額所得で残りは全部税)←政策

４公６民 (*cf.* 現在はほぼ５公５民)

全戸納税出来た(させた)＝“余裕”があった

マルクス、資本論、1867、
“日本は自営農主体、
・・・”

②←全戸自営農←全戸土地所有

１戸当たり農地1町歩 ≈ 10,000平米(分配)

１村(約100戸)に1寺1社、

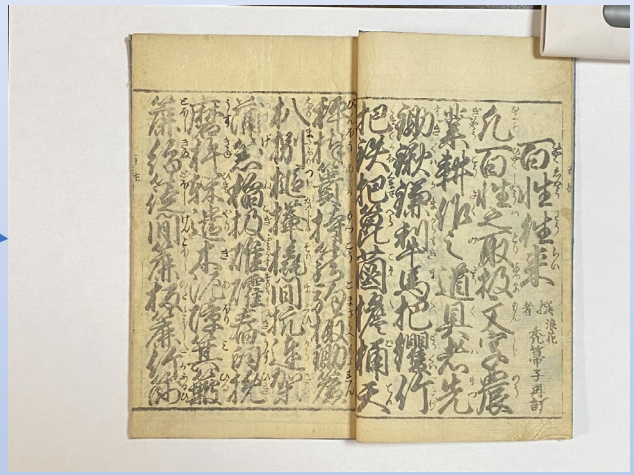
1戸三世代同居5人として1村約500人

全国約6万ヵ村、合計人口約3000万人

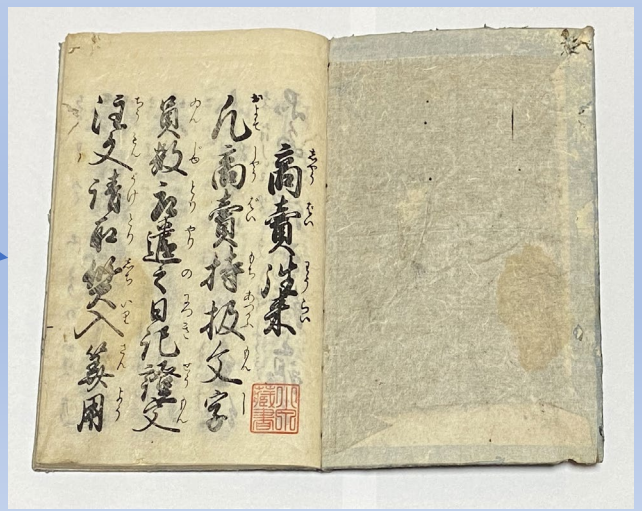
③←定住保証←土地売買禁止法

3.6　職業科

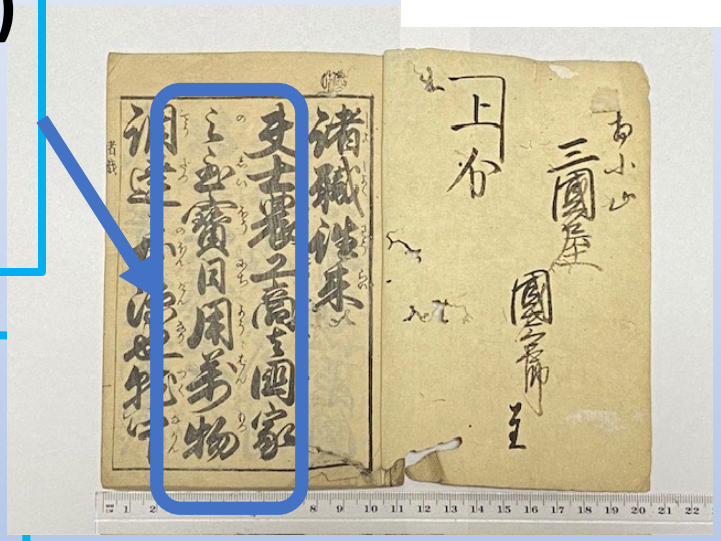
○百姓往来、禿箒子 (1766)
農家マニュアル
農業用語と技術、職業倫理
(×不申告(脱税) はダメ！)



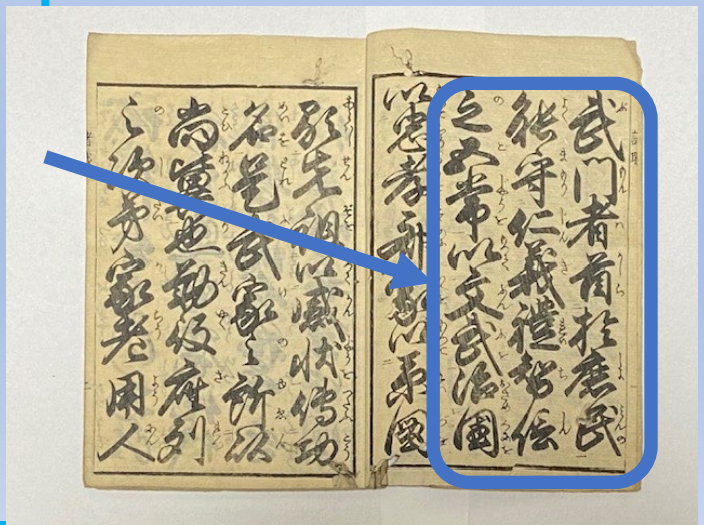
○商売往来、堀流水軒 (1694)
商業マニュアル
商業用語と技術、職業倫理
(×(薬の) 偽物はダメ！)



○諸職往来、山田東作 (江戸後期)
「士農工商は国家の至宝」
が書き出しで



「武門は・・仁義礼智信五常文武を以って国を治め、
系図を以って先祖を顕し、
感状を以って功名を伝える、
尚冀うこれ武家の所以也・・」
にはじまり農工商と続く士農工商別の職業倫理

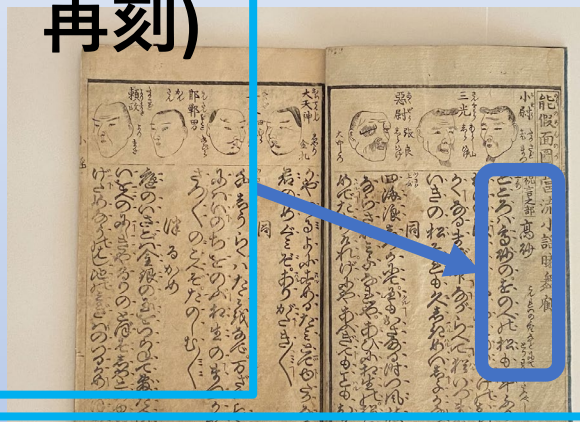


3.7　理数・芸術・暦占

○塵劫記、吉田光由 (1627)[3]
算数←入れこ算、ネズミ算

24/44

○当流小謡（安政4　再刻）
歌詞集。
「**高砂・・・**」
から始まる



○大雑書、作者不明(室町時代～江戸時代)
陰陽道占い(神)

○男女一代八卦、作者不明(1786以前)、
八卦占い(儒)

○三世相小鑑、作者不明(江戸中期)
仏教因縁説占い(仏)

YGD-2025-004

3.9 卒業後の読書：一般書

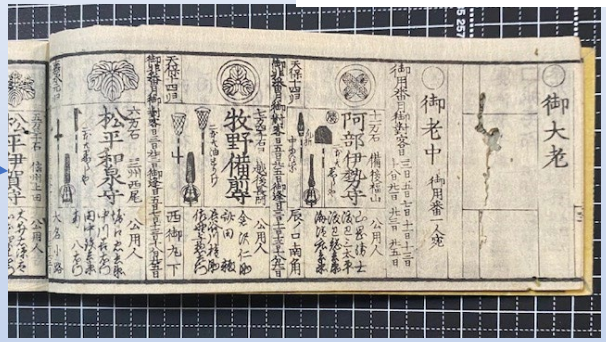
主な千部振舞(ベストセラー)書物

武鑑(毎年発行)人名録(役職、家紋)

　袖玉武鑑186ページ、携帯版

養生訓(貝原益軒, 1712)、

江戸流行料理通(八百善, 1822)



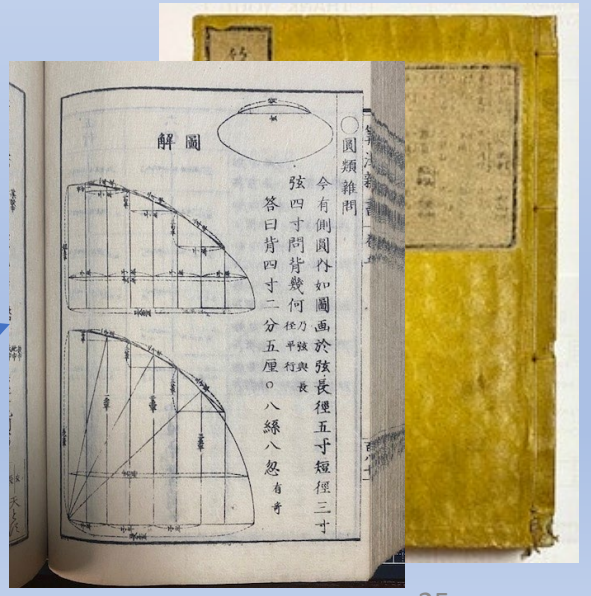
東海道中膝栗毛、十返舎一九、

北斎漫画(北斎, 1814-)、

江戸名所図会(齋藤長秋他,1834)、

他に**算法新書**(千葉胤秀編, 1830)

級数迄



4．教育方法

寺子屋運営書（教師用）

○**寺子新式目**、笹山梅安 (1695)

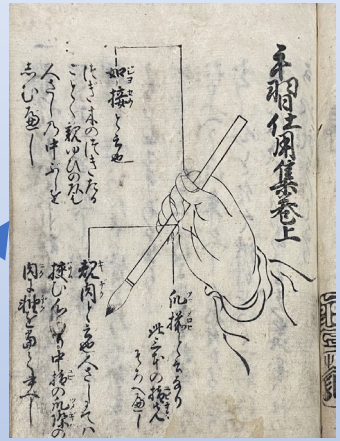
寺子屋の規則、言う事を聞かない生徒は親に返す、あとで分かる

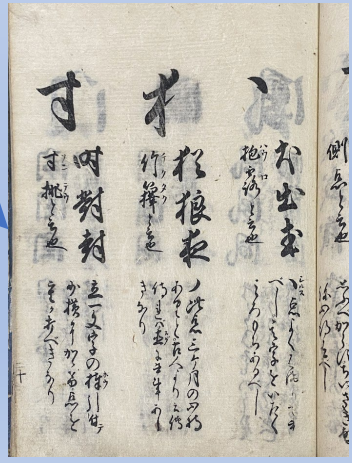
○**手習い仕用集**、笹山梅安 (1693)

教える技術

○**授業編**、山村蘇門(序) (1783)

幼児～老人の授業内容





4.1 形態：複式授業
個別最適化

個別指導：個別最適化・才能重視(理系ゼミと同じ)

↔画一教育(近代以降)：個性は例外扱い

・・・寺子屋方式

４.２ 順序：体得優先

先ず体で覚えさせる←習字優先
理屈は後回し

現代の理系(書写優先、計算優先)、体育(実技優先)
・・・→現代AIの記号接地問題・身体知

4.3 知識構造：体系的(基盤明示)

庭訓往来　実語教　童子教

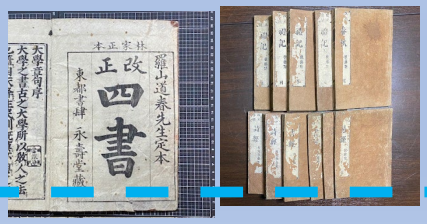
法則：覚えさせる
疑わせない

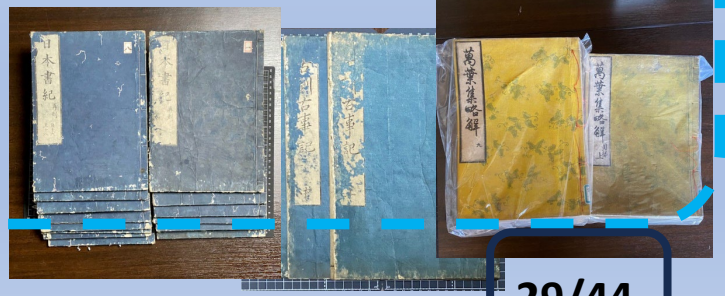
原理：あとで分かる
教師の知識

文化：国学
記紀神典等

道徳：儒教
四書五経等

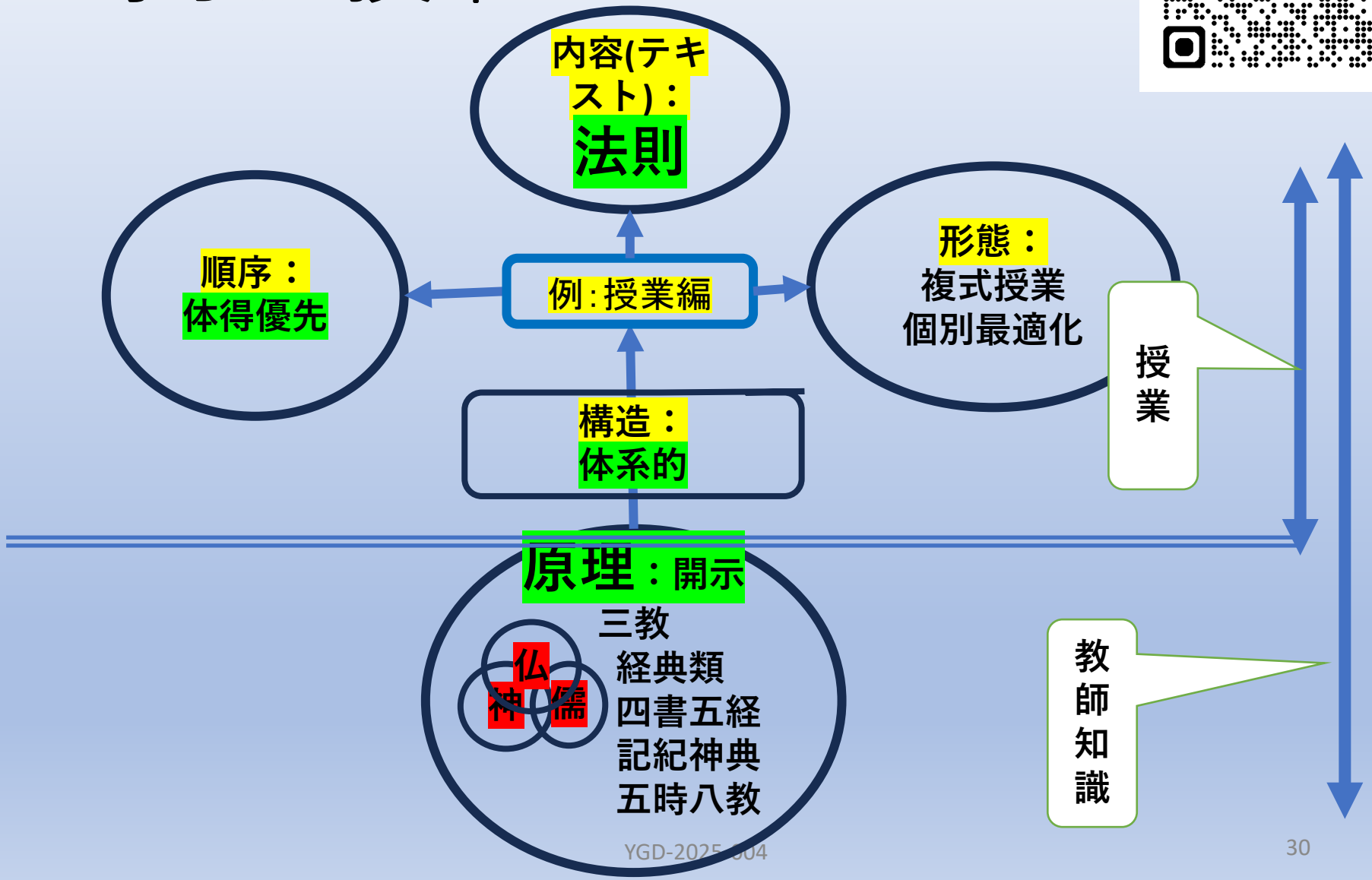
宗教：仏教
五時八教等経典





書写→理解の順。身に付けた後で意味を考える
深遠な原理には触れず使い易い法則だけ教える
現在の理科教育と同じ構図

寺子屋授業のまとめ


内容(テキスト)：
法則
順序：
体得優先
例：授業編
形態：
複式授業
個別最適化
構造：
体系的
原理：開示
三教
仏
神
儒
経典類
四書五経
記紀神典
五時八教
授業
教師知識

5．近代の教育

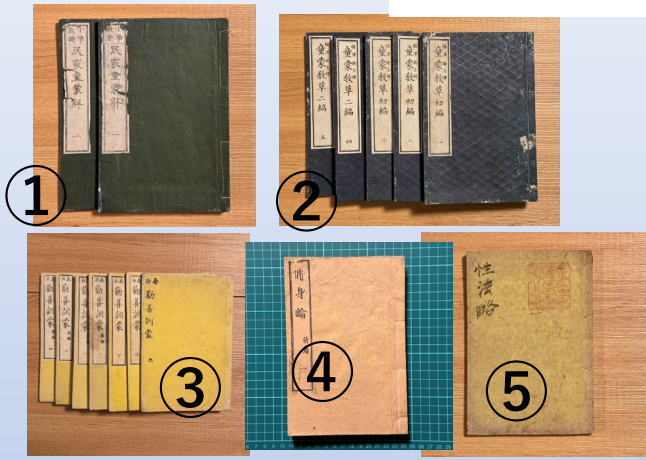
5.1　内容：原理は実質非周知→非体系的）[4]

小学教則

1年生　「民家童蒙解①・童蒙教草②等ヲ以テ教師・・・之ヲ説諭ス」

2年生前期　「勧善訓蒙③・修身論④等ヲ用ヒ教師之ヲ講述・・・」

2年生後期　「性法略⑤等ノ大意ヲ講授ス」



教則修身五書	編訳者	原書（著者の多くは宣教師）	原理
①民家童蒙解	青木輔清	「ｳｪｰﾗﾝﾄﾞ著、ｳｨｽﾄﾞﾑ」の抄訳と各種倫理書から収録	西洋三原理 ・西洋作法 ・希臘哲学ソクラテス・プラトン・アリストテレス ・基督教
②童蒙教草	福沢諭吉	ﾁｬﾝﾌﾞﾙ著、「ﾓﾗﾙ・ｶﾗｯｽﾌﾞｯｸ」	
③勧善訓蒙	蓑作麟祥	ﾎﾞﾝﾇ著、フランスの小学校教科書 ｳｨﾝｽﾛｰ著「ﾓﾗﾙ・ﾌｨﾛｿﾌｨｰ」 ﾋｺｯｸ著「ｼｽﾃﾑ・ｵﾌﾞ・ﾓﾗﾙ・ｻｲｴﾝｽ」	
④修身論	阿部泰蔵	ｳｪｰﾗﾝﾄﾞ著「ｴﾚﾒﾝﾂ・ｵﾌﾞ・ﾓﾗﾙ・ｻｲｱﾝｽ」 訳は天←God, 聖人←キリスト	
⑤性法略	神田孝平	オランダ人ﾌｨｯｾﾘﾝｸﾞの自然法講義	

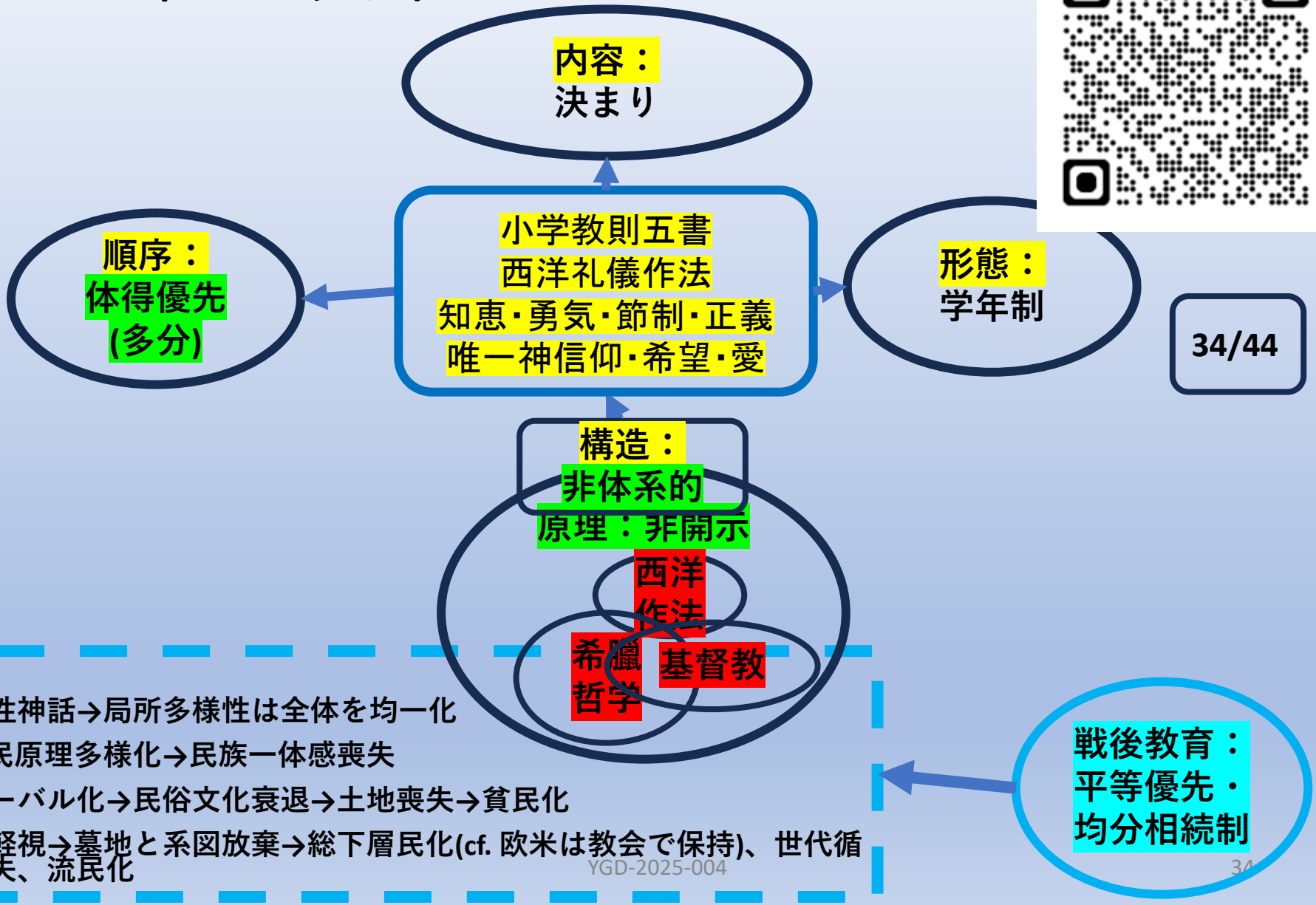
教育内容の比較

	寺子屋	近代I、II	現代の学校
知識構造	全科目体系的 基盤は原典↓：明確 文化：記紀万葉他 (約44万字) 道徳：四書五経 (約48万字) 宗教：大正大蔵経 (860万字,99年現在) 算数：算数新書等	Iの修身：原典非開示のため 非体系的 IIの修身：略	理系は体系的、原理原典明確： 基盤：親学問 道徳科、倫理科は非体系的 基盤：無し（生徒に考えさせる） ←原典非提示
知識内容	文化道徳宗教は神儒仏三教が中心 ・安全意識は言及無し ・人権意識は言及無し ・男女は区別	I：基督教、西洋原理。基督教は仏教徒の墓を認めない II：儒教神道	現代日本：生命財産優先？中心無し 仏：国是第五共和制市民の育成、米：国是忠誠の誓い（唯一神教正義の普及）

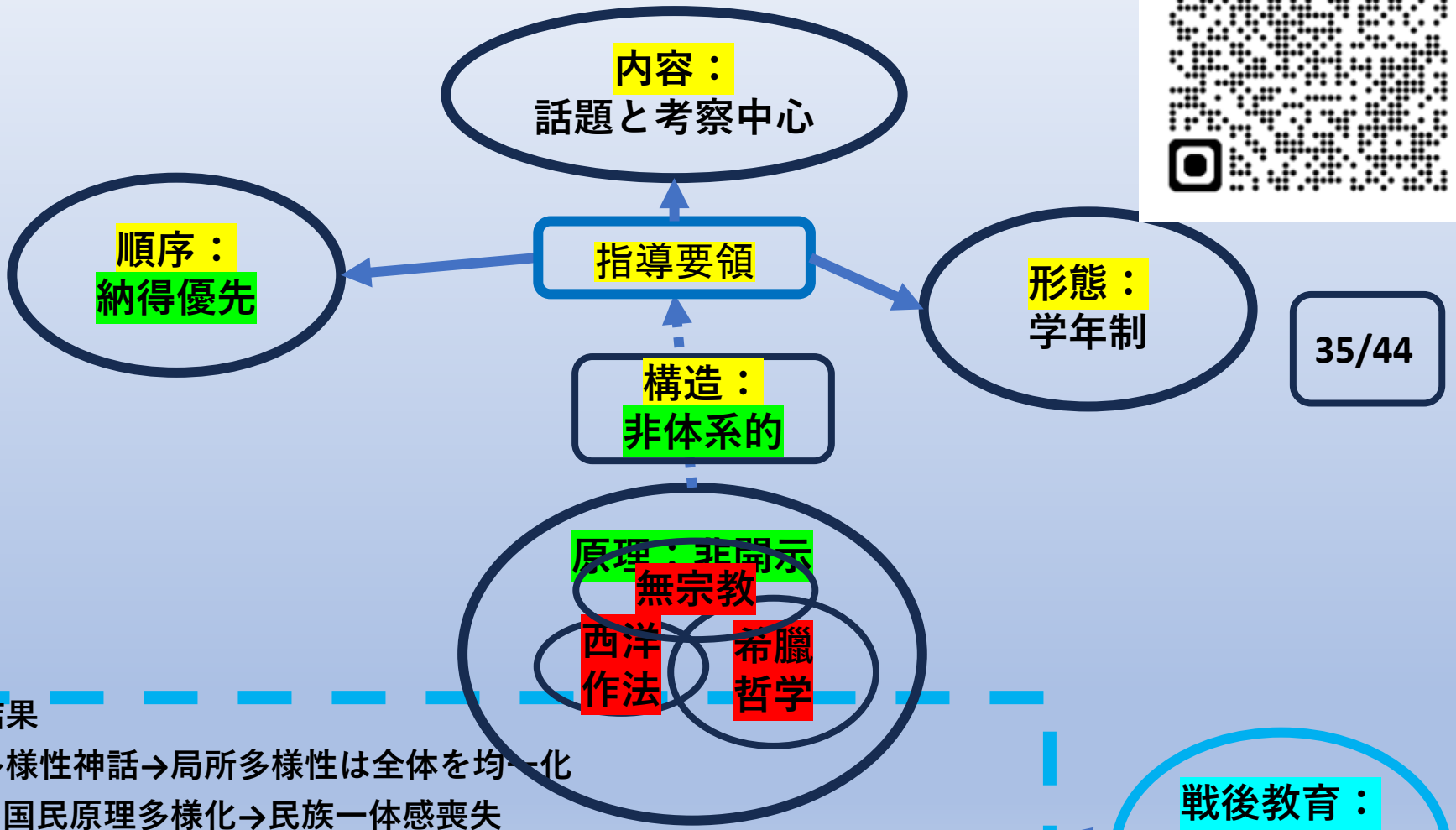
5.2　教育方法の比較

項目	寺子屋の教育方法	近代 I、近代II	現代の学校の教育方法(日本)
授業形態	複式学級 個別最適化指導	学年制、飛び級あり	教室：学年制、飛び級無しだと悪平等のおそれ ゼミ：個別指導、個性才能伸びる
授業順序	体得優先 形から教える (現在の理系方式：例えば数学科では公式を先。証明はあと。基盤の数学原理は疑わせない)	多分体得優先	理系と体育は体得優先 身体知、記号接地問題・・AI 道徳・倫理は納得優先、生徒に考えさせる→原典不提示だと混乱
社会性の涵養	原理原則準拠(三教) 原典に沿った規範優先。 多分原典明示	略	安全以外の原理原則無し 安全優先、集団順応 原典不提示(教師が知らない)

近代 I 授業のまとめ


内容：
決まり
順序：
体得優先
(多分)
小学教則五書
西洋礼儀作法
知恵･勇気･節制･正義
唯一神信仰･希望･愛
形態：
学年制
34/44
構造：
非体系的
原理：非開示
西洋
作法
希臘
哲学
基督教
結果
多様性神話→局所多様性は全体を均一化
→国民原理多様化→民族一体感喪失
グローバル化→民俗文化衰退→土地喪失→貧民化
定住軽視→墓地と系図放棄→総下層民化(cf. 欧米は教会で保持)、世代循
環喪失、流民化
戦後教育：
平等優先・
均分相続制

現代授業のまとめ



35/44

結果

多様性神話→局所多様性は全体を均一化

→国民原理多様化→民族一体感喪失

グローバル化→民俗文化衰退→土地喪失→貧民化

定住軽視→墓地と系図放棄→総下層民化(cf. 欧米は教会で保持)、世代循環喪失、流民化

戦後教育：
平等優先・
均分相続制

寺子屋認識と実際

項目	従来の認識(多分誤解)	寺子屋の実情
崩し字	学習難易度高い	学習容易(全員履修)
教科書	楷書版が無いと現代人読解不可。	崩し字(かな約100字)覚えれば読解可能
教訓/道徳教育	古い、前時代的	原理原典が明確 →体得・納得の順 体系的：現在の理系的
士農工商	身分制度 交替不可能	中国の用語、家業 仕官で交替可能
近世の農村と税	ほぼ小作(借地) 重税(現在の5公5民より重い)	ほぼ自営農 4公6民 寺子屋を維持する余裕あり

6.寺子屋補習で倫理の習得

行儀が良くて、忠孝に優れ、弱者の面倒をみて、
先祖神仏を供養する、信念を持った強い人の養成
注意。寺子屋時代の倫理→

・文化(伝統的行事)を身に付けさせた→作法、行事
・道徳を身に付けさせた→「五常・仁義礼智信」「忠孝」
・宗教を身に付けさせた→「輪廻修行」、「先祖供養」
→・・・→「作法・道徳」の格差が拡がらない・安全な社会

補習
理系同様の寺子屋の「法則優先方式」で、
学校で教わらない「文化・道徳・宗教」をリ･スキリング

文化(作法)：庭訓往来（原典：記紀神典）
道徳(五常)：実語教（原典：四書五経）
宗教(五戒)：童子教（原典：五時八教）

例．学習内容(形から覚える＝理系方式の徹底)

１．寺子屋教科書の書写読書

童子教　　仏三礼・神再拝・人一礼

実語教　　財より智

庭訓往来　年中行事　等

世話千字文（格言）自他幸甚・商売繁盛　他

２．寺子屋の解説書の読書

寺子調法記＋女寺子調法記(寺子屋教育のまとめ)

童子通(日本人の共通常識一覧)

注意1．近現代は原理が違う[4]
違うところは正す必要有り

- 寺子屋教育原理：三教(神儒仏)依拠

(原典明示→調べれば理由が分かる、＝社会規範)

- 近現代教育原理：教則修身五書依拠(開始時点)

←西洋三原理(西洋作法、希臘哲学、基督教)

(原典非明示→良く調べないと分からない、≠社会規範)

神道→国語へ・・・・・・・・・(廉潔重視≠勝敗重視)

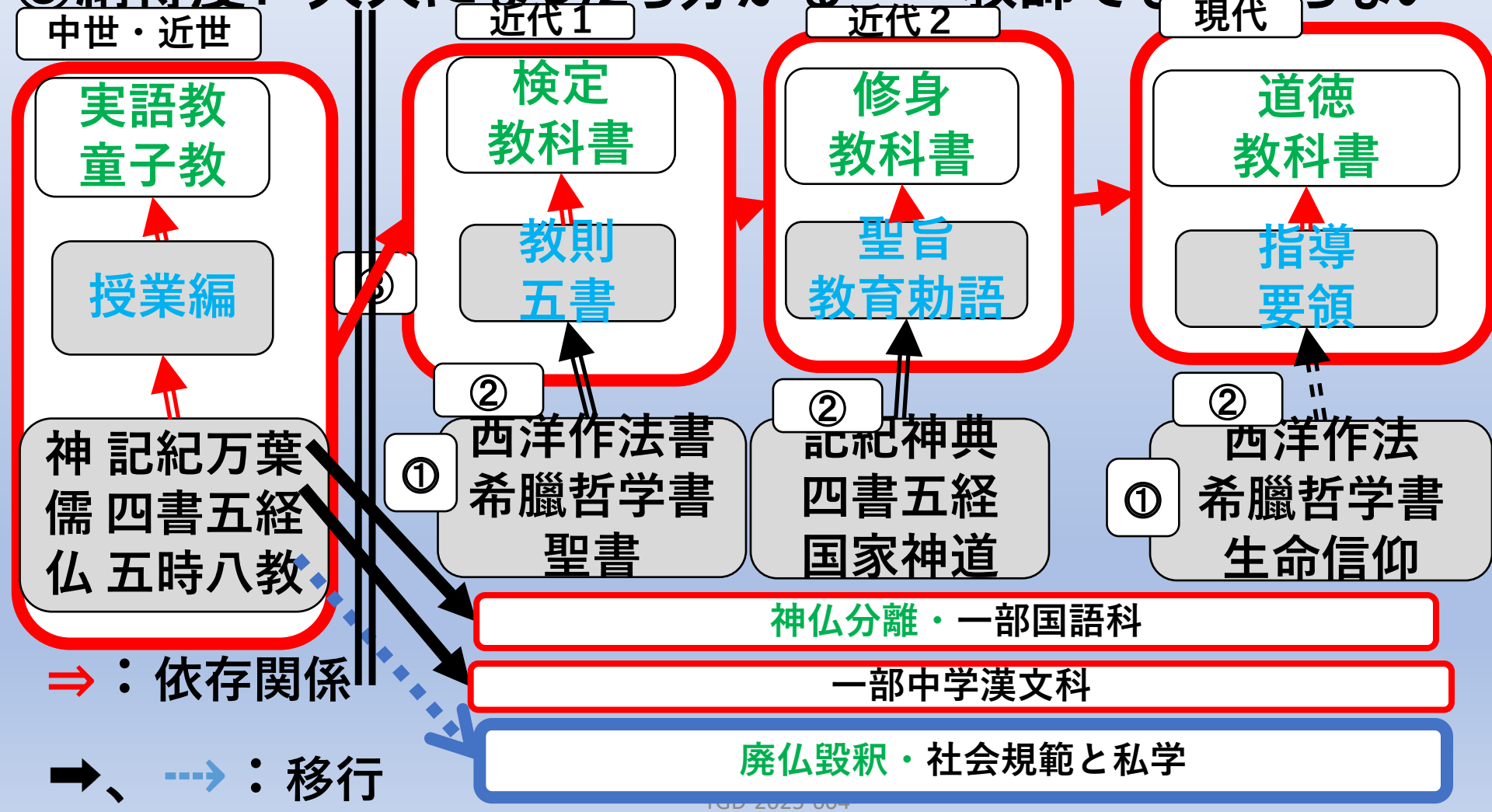
儒教→漢文へ、４文字熟語・・・(年長敬愛≠年長保護)

仏教→行事、諺へ・・・・・・・(輪廻修行≠人生1回)

	近世日本人→	→近代日本人I→	→近代日本人II→	→現代日本人
学校原理	神 儒 仏	西洋作法 西洋哲学 基督教 (十戒)	西洋作法 儒教(教育勅語) 国家神道(“)	西洋作法 西洋哲学 生命優先信仰
社会原理		神儒仏	神儒仏	神儒仏

明治当初の教訓科３断絶とその後

①原理：三教→西洋三原理→儒教・神道→西洋哲学・非宗教
②構造：体系的→非体系的(教則五書著者以外)
③納得度：”大人になったら分かる”→”教師でも分からない”



注意2. 教師用
寺子屋教育をまとめた書物

- **寺子調法記**、下河辺拾水(天保3(1832))
  実語教・童子教、
  今川状、腰越状、商売往来の合本

- **女寺子調法記**、池田東籬亭編(天保13(1842))
  女実語教、女今川、縫針、歌かるた、
  琴・三味線、七夕詩歌、女詞づかひ、
  折形の図、十干十二支、男女相性など

・童子通、山本舊逸、天保15(1844)

数字関連

十干十二支　甲乙丙丁・・・、子丑寅卯・・・

五常　仁義礼智信

五倫　父子、君臣、夫婦、長幼、朋友

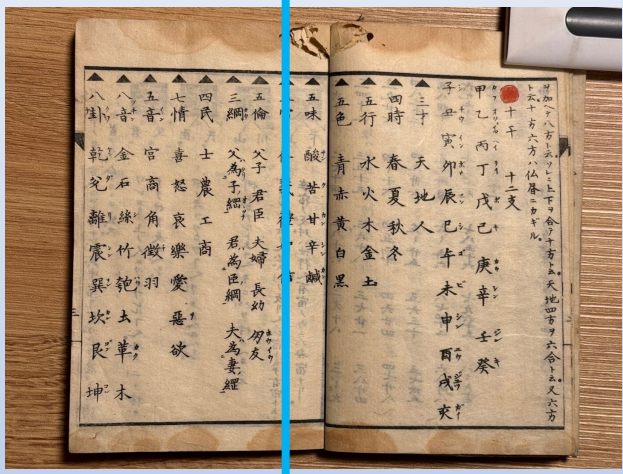
七情　喜怒哀楽愛悪欲

九経字数(四書五経)総計484,095字

歴史書一覧

十七史、二十一史

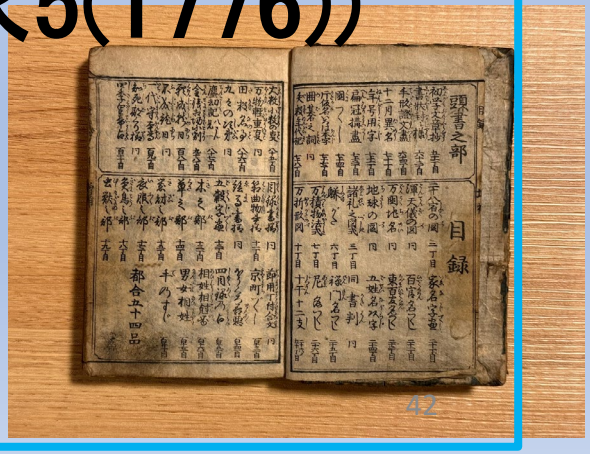
本朝三部本書、本朝六国史



・増補童子字尽、浅田恒隆(安永5(1776))

囲碁の用語、のしの折り方、

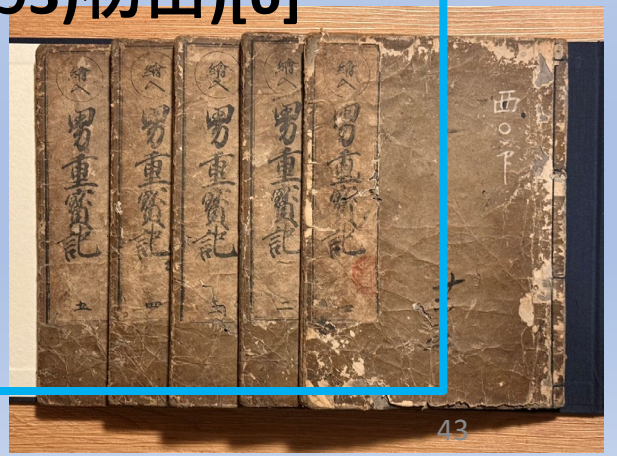
席順、着物畳方など常識全般



注意3. 教師用(つづき)
大人の常識(当時の若者教育)

- **女重宝記**、苗村丈伯(元禄5(1692)初出)[6]
  1．女中万たしなみの事(女は人間のはじまり、言葉遣い、化粧他)、
  2．祝言の事、 3． 懐妊の事
  4．諸芸の事(文、歌書、琴、 源氏物語、ご節句、小笠原流折かるた、香他)
  5．女節用集字尽形　他)

- **男重宝記**、草田寸木子(苗村丈伯)(元禄6(1693)初出)[6]
  童男の知りて重宝、男子一代の総論：
  よみかき学文の芸を第一、和歌、連歌、俳諧、茶の湯、碁、将棋、立花(りっか)、しつけ五十一箇条



7．おわりに

44/44

まとめ

寺子屋の概要→年表、仕様・・・・・・・・§２
教育内容→カリキュラム・テキスト解説・§３
教育方法→書写優先、複式授業・・・・・§４
近現代教育→方法・内容を比較・・・・・§５
現在の寺子年代に活かす→注意点・・・・§６

評価

- 可能←寺子屋原理が未だ社会に残っている

今後

- 簡潔にする
- 広く周知
  WEBへの掲載等

END